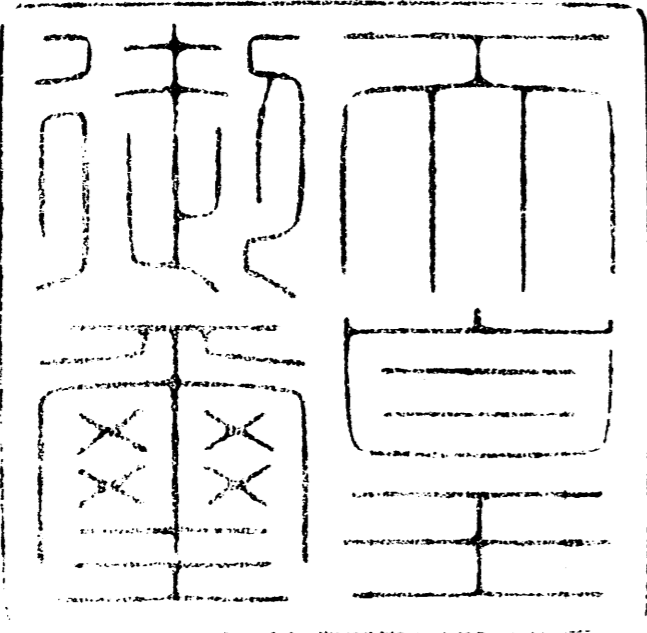


法律第六十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外貨債處
理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裕仁



昭和十八年三月十三日

日

内閣總理大臣 東條英機
 大藏大臣 賀屋興宣
 内務大臣 湯澤三平男

法律第六十號

外貨債處理法

第一條 本法ニ於テ外貨債トハ米貨又ハ英貨ヲ以テ表示スル國債、地方債及社債並ニ邦貨ヲ

以テ表示スルモ確定換算率ニ依リ英貨ヲ以テ支拂ヲ爲スベキ特約アル地方債ニシテ命令ヲ

以テ定ムルモノヲ謂フ

第二條 外貨債ノ發行者(外貨債ノ元利支拂義務ヲ承繼シタル者アルトキハ當該承繼者トス

以下同ジ)ハ原契約ニ拘ラズ命令ヲ以テ定ムル者ノ所有スル外貨債ニ代ヘテ邦貨ヲ以テ表

示スル國債、地方債又ハ社債(以下邦貨債ト稱ス)ヲ發行シ當該外貨債ト借換フベシ

前項ノ借換ニ付テハ當該外貨債ノ所有者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ當該所有

者ガ命令ヲ以テ定ムル本邦人ニシテ其ノ意思ヲ確ムルコト能ハザルモノナルトキハ借換ヲ

承諾シタルモノト看做ス

第一項ノ場合ニ於テ邦貨債ノ最小額面金額ニ滿タザル端數アルトキハ其ノ端數ハ金錢ヲ以テ之ヲ支拂フベシ

第一項ノ規定ニ依ル外貨債ノ借換アリタルトキハ當該外貨債ヲ目的トスル質權ハ同項ノ規定ニ依リ發行スル邦貨債又ハ前項ノ規定ニ依リ支拂フ金錢ノ上ニ存在ス

第三條 前條第一項ノ規定ニ依リ借換ヘラルル外貨債ノ價格其ノ他ノ外貨債ノ借換ニ關スル條件ハ本法ニ規定スルモノヲ除クノ外外貨債處理委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

政府前項ノ事項ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

外貨債處理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 第二條第一項ノ規定ニ依リ借換ヘラルタル外貨債ノ證券ハ之ヲ無効トス

第二條第一項ノ規定ニ依リ借換ヘラルタル外貨債ノ利札ニシテ本法施行後最初ニ利拂期日ノ到來スルモノハ借換ノ後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有シ本法施行後最初ニ到來スル利拂期日後

ニ利拂期日ノ到來スルモノハ之ヲ無効トス

前二項ノ規定ニ依リ無効ト爲リタル外貨債ノ證券及利札ハ當該外貨債ノ發行者之ヲ公示スベシ但シ當該外貨債ノ發行者ニ於テ毀却シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 第二條第一項ノ規定ニ依リ發行スル邦貨債ノ利子ハ同項ノ規定ニ依リ借換ヘラルル外貨債ノ本法施行後最初ニ到來スル利拂期日ニ於テ支拂ハルベキ利子ノ計算期間ノ最終日ノ翌日以後ノ期間ニ付之ヲ附スベシ

第六條 外貨債タル地方債又ハ社債ノ發行者ガ第二條第一項ノ規定ニ依リ借換ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該借換ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依リ政府ノ補償スベキ損失ヲ決定スル基準ハ外貨債處理委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

第七條 前條第一項ノ規定ニ依ル補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

政府ハ第一項ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ國債ヲ發行スルコトヲ得

第八條 政府ハ外貨債タル地方債又ハ社債ノ發行者ヲシテ其ノ發行シタル外貨債タル地方債

若ハ社債又ハ元利支拂義務ヲ承繼シタル外貨債タル社債ニシテ其ノ所有スルモノヲ原契約

ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ消却セシムルコトヲ得

第四條第一項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル消却アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 政府ハ外貨債タル地方債又ハ社債ニシテ第二條第一項ノ規定ニ依リ借換ヘラルルモ

ノ以外ノモノニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ元利支拂義務ヲ承繼ス

前項ノ場合ニ於テハ元利支拂義務ヲ除クノ外當該地方債又ハ社債ノ物上擔保其ノ他ノ原契

約ノ效力ハ消滅スルモノトス

第十條 前條第一項ノ場合ニ於テハ當該地方債又ハ社債ノ發行者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ承

繼ノ對價ヲ政府ニ納付スベシ

前項ノ規定ニ依リ當該發行者ノ納付スベキ對價ヲ決定スル基準ハ外貨債處理委員會ノ議ヲ

經テ政府之ヲ定ム

第十一條 前條第一項ノ規定ニ依ル納付金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該發行者ノ發行スル地

方債證券又ハ社債證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納付スル地方債證券又ハ社債證券ノ納付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣

之ヲ定ム

第十二條 第六條第一項ノ規定ニ依リ損失ノ補償ヲ受クルト共ニ第十條第一項ノ規定ニ依リ

對價ノ納付ヲ爲スベキ者ニ付テハ第六條第一項又ハ第十條第一項ノ規定ニ拘ラズ補償金額

ガ納付金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル金額ヲ政府ヨリ交付シ納付金額ガ補償

金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付セシム

第七條又ハ前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ第二條第一項又ハ第十一條第一項(前條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム以下同ジ)ノ規定ニ依リ發行スル社債ノ元利支拂ニ付保證ヲ爲スコトヲ得

第十四條 外貨債タル社債ノ發行者ハ他ノ法令ニ規定スル制限ヲ超エテ第二條第一項又ハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ社債ヲ發行スルコトヲ得

商法第二百九十六條、第二百九十八條及第三百一條ノ規定ハ前項ノ社債ニハ之ヲ適用セズ

第十五條 外貨債タル地方債又ハ社債ノ發行者ハ第二條第一項ノ規定ニ依ル外貨債ノ借換、

第八條第一項ノ規定ニ依ル外貨債ノ消却並ニ第十一條第一項ノ規定ニ依ル地方債及社債ノ發行ニ付テハ他ノ法令ニ依ル許可又ハ認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第十六條 本法ニ規定スルモノノ外外貨債ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 名古屋市ハ命令ヲ以テ定ムル者ノ所有スル名古屋市五分利附英貨八十萬磅公債ヲ

原契約ニ拘ラズ邦貨ヲ以テ償還スベシ

第二條第二項、第三條第一項及第二項、第四條第一項及第三項、第六條乃至第十二條、第十五條並ニ前條ノ規定ハ前項ノ公債ニ之ヲ準用ス

第十八條 外貨債及前條第一項ノ公債ノ利札ニシテ之ニ付外國爲替管理法又ハ敵産管理法ニ基ク命令ニ依リ支拂アリタルモノハ之ヲ無効トス

第四條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 外貨債タル社債ノ發行者ガ第二條第一項又ハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ發行スル社債ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ登録税ノ額ハ拂込金額ノ千分ノ一トス

第二十條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲ

シテ必要ナル場所ニ臨檢シ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

八

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ本法ニ基キテ發スル

命令ニ依リ提出スル書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者亦前項ニ同ジ

第二十二條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前

條第一項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ

其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

前條第一項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル

役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成

年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 本法ノ罰則ハ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニハ之ヲ適用セズ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス